

企画セッション（参加費無料）

※ 事前に登録が必要な企画は、参加申込先を明記しております（参加費は不要）
 ※ 開始時間等が変更になる場合もあります。最新情報は必ず大会webページでご確認ください

日時	会場	タイトル
10/29(土) 8:20-12:00	オンライン	<p>Geocomputation with R 勉強会（ワークショップ）</p> <p>企画：岩崎亘典（FOSS4G分科会）</p> <p>参加申込：https://bit.ly/gisa31-foss4g</p> <p>講師：青木和人、馬場美彦（アシスタント 小野原彩香、岩崎亘典）</p> <p>Rは、オープンソースの統計解析ソフトとして広く使われており、地理空間情報の解析も可能です。近年、Rの地理関連パッケージが大きく変わっています。本セッションでは、「Geocomputation with R」*をもとに、新しくなった地理関連パッケージの使用法を習得することを目的とします。</p> <p>「Geocomputation with R」は、英語版の第一版は2019年に出版されました。しかし、その後主要なパッケージが2023年までに新しいパッケージに後継を譲ることになりました。引退するパッケージには、rgdal、rgeos、maptoolsなどがあります。このため、新しく、sfやterraを使った第二版を作成中です。この勉強会では、第二版を元に行い、第二章「Rで地理データ」までを実行できる事を目標とします。勉強会の実施に当たっては、RStudio.cloudまたはBinderで、インストール済みの仮想環境を使用します。</p> <p>*オリジナル：https://geocompr.robinlovelace.net/</p> <p>日本語訳：http://babayoshihiko.ddns.net/geo/ または http://124.219.182.167/geo/</p>
10/29(土) 10:20-12:00	オンライン	<p>デジタルアース研究の現状と課題（シンポジウム）</p> <p>企画：福井弘道（中部大学）</p> <p>中部大学国際GISセンターは、2014年に文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、GISをはじめ、情報科学、リモートセンシング、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を推進してきました。さらに環境、災害、感染症等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献することを目的としています。本セッションでは、2021年度の拠点の共同研究成果の報告と、関連研究者によるパネル・ディスカッションを行い、デジタルアース研究分野と問題複合体への学術によるアプローチについて展望します。</p>
10/29(土) 14:00-18:20	会場S (312会議室)	<p>第17回マイクロジオデータ研究会 「空き家問題の最前線～マイクロジオデータで迫る空き家の現在と将来～」（シンポジウム）</p> <p>企画：秋山祐樹（東京都市大学）</p> <p>参加申込：http://microgeodata.jp/contents/mgd17.html</p> <p>2011年に発足した本研究会は、マイクロジオデータ(MGD:位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細なデータや統計の総称)の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行ってきました。MGDは既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。</p> <p>今回のMGD研究会では、近年全国的に顕在化しつつある空き家問題について、MGDを活用してその現状や将来について迫っていく予定です。具体的にはMGDを活用した空き家分布状況の把握技術の開発や、空き家分布情報の分析・活用事例、また具体的な政策に活かすまでの課題などについて、産官学の有識者から具体的な研究や事例の紹介を交えつつ議論を深めたいと考えています。</p>
10/29(土) 14:00-16:00	会場D (303会議室)	<p>クラウドGIS体験（ハンズオン）</p> <p>企画：土田雅代（ESRIジャパン株式会社）</p> <p>参加申込：masayo_tsuchida@esrij.com</p> <p>インターネットの接続環境があれば、どこでも、どの端末でも利用できるクラウドGISであるArcGIS Onlineを使って、Webマップの作成、ArcGIS Online Appsなどを体験します。</p> <p>必要なライセンスは弊社にて用意しますので、各自インターネット接続可能なPCおよびタブレットのどちらかをご用意ください。</p>
10/29(土) 16:20-18:20	会場D (303会議室)	<p>ArcGIS API for Python体験（ハンズオン）</p> <p>企画：土田雅代（ESRIジャパン株式会社）</p> <p>参加申込：masayo_tsuchida@esrij.com</p> <p>Pythonをブラウザ上でインタラクティブ（対話的）に実行できるツールであるJupyter Notebookを利用してWebマップと地理空間データを扱うためのPythonベースのAPIを体験します。</p> <p>必要なライセンスは弊社にて用意しますので、各自インターネット接続可能なPCおよびタブレットのどちらかをご用意ください。</p> <p>動作環境 ESRIジャパン（esrij.com） https://www.esrij.com/products/arcgis-api-for-python/environments/</p>
10/29(土) 16:20-18:20 研究発表セッション 10/30(日) 10:50-12:50 交流セッション	会場A (101会議室)	<p>学生フリーテーマ発表会（シンポジウム）※2日間開催</p> <p>企画：若手分科会</p> <p>若手分科会では、研究発表大会が学生のみなさんにとっても成果発表の場および研究交流の場になってほしいと考え、本年度も「学生フリーテーマ発表会」を企画します。本年度も成果発表セッションと交流セッションの2セッションを開催します。</p> <p>前者は一定の研究成果が出ている学生さんを対象に、通常の口頭発表セッションに近い形で運営します。優秀な研究発表と将来性のある研究テーマについて、それぞれ分科会として表彰予定です。</p> <p>後者は構想段階での研究発表、講義やゼミなどの取り組みを紹介することを重視し、発表時間よりも質疑応答や意見交換の時間を長くとります。いずれも学生さんであれば学年や分野、個人・共同を問わず発表できます。他大学、他分野の学生さんと交流する機会としてください。</p>

10/30(日) 8:30-12:50	会場S (312会議室)	オープンで、皆で使える空間データの動向(技術・サービス・各制度) ～OGCと日本の研究・実践の連携について (ワークショップ) 企画: 福井エドワード(海岸通りPJ/Clean Green Asset Management)
		世界の各都市でデジタルツインが整備され注目を集めている。3Dデータを取得、共有する技術・サービスのプラットフォームの構築が急速に進んでいるが、問題点として、規格やソフトウェアも多様で、一般の普及の障害が指摘されている。この問題から、何に役に立つか、ユースケースがまだ少ないの、にわとり卵の状況が生まれている。 ひろく世界での知見を共有するため、OGC(Open GeoSpatial Consortium)と、日本の教育・実践の連携を活性化にするための方策を議論したい。
10/30(日) 8:30-10:30	会議室A (101会議室)	基礎自治体におけるベースレジストリとGIS (ワークショップ) 企画: 青木和人(自治体分科会)
		皆さん、自治体のGIS担当部署の組織名が変更されていることをご存知でしょうか。従来の「情報政策課」等の組織名が「DX推進課」等のデジタルトランスフォーメーションを冠した名称に変わってきています。これ等の名称変更に込められた自治体の思いは、「アナログからデジタルへの転換」を超えて、「デジタルを前提とした組織や仕組みの改変」をめざすという意気込みではないでしょうか。 自治体にとってGISは既に業務の効率化が目的ではありません。これまで府内で共用されていたデータの他、利用が限定されていたデータもうまく活用して、新たなバーチャル環境を築いていく役割を担うものになっていくということです。 当セッションは、この変革のまっただ中にある自治体GISが、DX推進の基礎と定義されるベースレジストリ(人、法人、土地、建物、資格)の運用や利活用について、自治体視点での話題提供と、自治体分科会ならではの議論を行い、地域の最前線に立つ基礎自治体のベースレジストリの在り方について検討します。
10/30(日) 10:50-12:50	会場D (303会議室)	災害時の状況認識図作成支援活動 (ワークショップ) 企画: 畑山満則(防災GIS分科会)
		近年、気候変動の影響により風水害は巨大化、高頻度化する傾向にある。また、阪神・淡路大震災以降、日本全国で50人以上の死者・行方不明者を出した地震が10年程度のサイクルで発生していることを鑑みると災害への備えは最重要課題ともいえる。災害時には状況認識図(Common Operating Picture)を用いた認識の統一が重要と言われているが、これらは、位置と時間が付随した情報として管理することが必須であり、GISの役割は大きいことが近年の災害で示されている。これまで、地理情報システム学会では防災GIS分科会が中心となり、災害支援活動を行ってきた。これらの経験を総括し、今後の災害時での状況認識図作成支援の在り方について議論を行う。
10/30(日) 13:00-13:10	会場A (101会議室)	学会賞授賞式 ※2年ぶりの対面での授賞式です。みなさま、ご列席ください※
10/30(日) 13:50-15:50	会場S (312会議室)	2022年度 初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰 (シンポジウム) 企画: 塚本章宏(教育委員会)
		日本学術会議からの提言や学習指導要領などでは、初等中等教育現場においてGIS(地理情報システム)を実践的に活用した授業の展開が求められている。とりわけ高等学校の必修科目「地理総合」において、GISを活用する能力の習得が明確に位置付けられている。こうしたなか、地理情報システム学会では、教育現場でのGIS活用の普及・展開の契機として、授業計画やその実践においてGISを活用した優良事例を表彰している。 本セッションでは、2022年度に実施された、初等中等教育においてGISを活用した授業のうち、優良事例について表彰する。そして、表彰者による事例発表を行い、活用現場や教材開発についてのノウハウや有用性、ならびに解決すべき諸課題などの情報交換を通して、今後の発展を図る。